

## 一般質問 ここが聞きたい!

紙面の内容は、質問・答弁とも質問者自らが要約、執筆したものを掲載しています。

第2回町議会定例会の一般質問（一問一答方式を試行中）に、8議員が登壇しました。

3月9日（火）の質問者 2名

- 小林 盛 議員 県営産廃最終処分場の設置許可申請の状況について  
北沢地区の不法投棄物処理に関する実現可能な最善の方策について  
活力ある商店街を取り戻すために
- 鈴木雅仁 議員 官民協働事業による那珂川町版「くらしのガイドブック」制作について  
栃木県フィルムコミッションとの連携について  
学校体育施設等に関する修繕及び整備について

3月10日（水）の質問者 4名

- 鈴木和江 議員 那珂川町の観光の取り組みについて
- 福島泰夫 議員 ケーブルテレビの有効活用について 生ごみの堆肥化の試験について
- 川上要一 議員 職員数削減による庁舎等施設の配置について  
小川ゆうゆう農産物直売所の出入口の改善について
- 益子明美 議員 貧困ビジネスに関する町の考え方と対応について  
町職員の懲戒処分について 町奨学生制度の拡充について  
県営産廃最終処分場問題について

3月11日（水）の質問者 2名

- 桑原勇一 議員 補助金交付団体の指導体制と審査委員会について  
那珂川町ケーブルテレビについて  
ご当地体操を作り町の活性化を
- 杉本益三 議員 協働のまちづくりの具体的施策は  
県営産廃馬頭最終処分場の今後の町の対応について

**質問** 北沢地区には約20年前に不法投棄された産業廃棄物がいまだに解決されずに放置されている。法律に基づき解決を訴えてきたが、県と町は処分場を設置しての解決が実現可能な最善の方法として住民に説明してきた。

平成20年2月に県営産廃最終処分場の設置許可申請が出されてから丸2年が経過するが、いまだに許可が下りていない。町は処分場の設置を要請した立場から、どのような状況になっているのか町民に知らせるべきではないのか。

**答弁**（住民生活課長）設置許可申請に対する審査状況については町でも県に確認したが、現在審査中とのこ



小林 盛議員

なぜ最終処分場の設置許可が出ていないのか

とである。  
判断が下された場合には、町にも連絡があると考えられるので、その時点で町民に情報を提供していきたい。

処分場設置が最善の方策とする法的根拠は

**質問** 県営の処分場を設置して不法投棄物を処理することが、実現可能な最善の方策であると、知事も町長も言っているが、最善の方策とする法的な見解を伺う。

**答弁**（環境総合推進室長）解決に向けた事業を進めるにあたっては、住民への情報提供と事業へのご理解・ご協力をいただくことが重要と考えている。

この事業は県が事業主体として実施するものであり、県は廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づいて、安全で安心できる最終処分場を整備し、北沢の不法投棄物を適正に処理するとし

ている。

### にぎわいのある 商店街の復活を

**質問** 町内商店街の衰退を危惧する声が、商店関係者や店主の皆さんから度々聞かされる。商店街の衰退は当町だけの問題ではないが、活力ある商店街を取り戻すために、町はどのような方策を考えているのか伺う。

**答弁**（町長）かつての商店街は人々が行き交うにぎわいを代表する場所であったが、様々な社会経済環境の変化によって商店街の状況も変わってきた。

活性化を図り元気のある商店街づくりを進めることは極めて重要であると認識している。

町では地元購買力の促進と商工業者の活性化のため、ハード、ソフト両面で商店街活動を支援してきており、緊急経済対策としてもプレミアムつき商品券の発行について、2年続けて助成を行ってき

た。次年度においては、中小企業振興資金枠も拡大して企業の振興を図ることとしている。

4月からは旧両町の商工会と観光協会が合併し、それぞれ1つの団体として発足することから、観光を始めとして多様な産業が成長・発展するように商工会、観光協会と連携を図りながら地域や商店街の活性化を促進していきたい。



商店街のにぎわいを復活させたい

### 官民協働で 町ガイドブックを作成しては



鈴木雅仁議員

**質問** 多くの市町村では官民協働事業で行政、産業、観光、医療、特産品、イベント等の情報を掲載したガイドブックを作成し、地域振興と行政サービス向上につなげている。また、官民協働で制作することで自治体経費の低減にもつながることから、那珂川町版「くらしのガイドブック」製作を提案する。町の考えを伺う。

**答弁**（企画財政課長）現在の町ガイドブックは、合併時に作成したものであり、情報も変化している。

現在、広報紙、ケーブルテレビ、インターネット等を通じて情報提供に努めているが、提案の官民協働でのガイドブック製作は、近

隣市町の状況を聞き、当町での実施が可能か検討していく。



現在の暮らしのガイドブック

### フィルムコミッションと連携して地域振興を

**質問** 栃木県フィルムコミッションでは、県内各地の旧所名跡を紹介し、映画やテレビ等の撮影誘致を行っている。地域の撮影や放映が行われることによって、知名度向上や観光振興にもつながっており、大きな経済効果をもたらす事例も多いことから次の点を伺う。

フィルムコミッションに対する町のこれまでの取組

みと当町での実績は。この機関を活用して独自のPRを行い、地域振興や観光振興を図っては。

南那須地域等でフィルムコミッション組織化を図っては。

**答弁**（町長）県フィルムコミッションのホームページに町内12カ所のロケ地を掲載しPRを行っており、映画やビデオ撮影にも使われている。また、テレビ取材でも馬頭温泉郷、八溝ししまる、温泉トラフグなどが取り上げられており、観光振興に寄与している。

県フィルムコミッションホームページへの登録件数を増やし、マスコミや映画関係者への情報提供を行っていききたい。

隣接市町でもフィルムコミッションを立ち上げており、関係団体と協議していきたい。

### 安全・安心なスポーツ活動のための整備を

**質問** 学校体育施設等の修繕、整備に関して次の点を伺う。

ナイター照明が切れている箇所があるが、維持管理はどうなっているか。

馬頭運動場では小石の露出や冬場の凍結があり、事故の危険もある。維持管理や整備はどうなっているか。

馬頭中学校付近は防犯灯、街路灯が少ない。部活動帰宅時の安全性の面から学校周辺の照明を整備しては。

**【答弁】**（生涯学習課長） 体育施設の修繕については、毎年、利用団体からの要望により整備計画に反映している。馬頭運動場のナイター照明については、3月末までに改修の予定であり、今後、馬頭高校のナイター施設も使えるよう協議していきたい。

馬頭運動場の修繕等は利用団体のボランティア活動で整備をしていただいている。凍結防止については、中学校と協議していきたい。

防犯灯、道路照明の点灯状況等を再確認し、通学等防犯上の危険箇所を把握し、修繕等を実施したい。

防犯上の危険箇所を把握し、修繕等を実施したい。



## 地域資源を活用して 魅力ある観光に



鈴木和江議員

**【質問】** 那珂川町の観光資源は様々な領域にわたり数多く存在しており、これらの資源を活用した取り組みが必要と考えることから次の点を伺う。

観光、農業、商工業、美術館などの関係者による懇談会を開催して観光客のニーズを集約し、リピーターとして再度来町してもらえないか。

食の歴史や祭り、伝統芸能など暮らしの中で伝えられてきた行事などの地域特性を取り入れた観光PRも必要であり、郷土史家などの協力や支援を受けて活用を図ることは考えられないか。

観光パンフレットに拠点

施設からの道順や距離、名所の概略、特産品、土産店や飲食店などの情報を掲載し、観光客がよりわかりやすいものにすべきと考えるがどうか。

当町は木材資源が豊富であることから、間伐材を活用して観光施設の看板を統一してはどうか。

近隣市町と連携して旅行雑誌などへの掲載を働きかける考えはないか。

**【答弁】**（町長） 当町には年間180万人の観光客が訪れている。リピーターを増やすために各組織が単独でこれら観光客のニーズを集約してまとめることは難しい。

4月に新しく発足する那珂川町商工会、那珂川町観光協会と協力して観光客誘致に向けた条件整備を検討したい。

（商工観光課長） 食の歴史や年中行事、風俗などの地域特性をPRし、付加価値を付けていくためには、

郷土史家の方々に協力や支援を求める必要がある。今後、これらの方々と連携を促進していきたい。

現在の観光パンフレットは合併時に作成したものであり、現在、アイディアコンペ方式により平成22年度に新しい観光パンフレットの作成を予定している。

これには、町の春夏秋冬、癒す、遊ぶ、見る、買うなどのほか、歳時記、絶景、散策ツーリズムなども掲載する予定であり、提案の道順や方向、距離なども盛り込み、カーナビにも対応した、より魅力あるわかりやすいパンフレットを作成していきたいと考えている。

観光看板については、現在、学官連携事業の中で、宇都宮メディアアーツ専門学校からデザインを提供を受けて、町内8か所の看板更新を進めている。

今後、看板等の更新時には、提案の間伐材の活用を含めて検討していきたい。

近隣市町との連携に



観光客で賑わう道の駅ばどう

については、やすらぎの栃木路共同宣伝協議会、県立自然公園協議会、道の駅連絡協議会、八溝県立自然公園連絡協議会や近隣市町と連携を図りながら観光情報をPRしていきたい。

旅行雑誌への掲載については、有料掲載は考えていない。旅の手帳やフリーペーパーにも何度も掲載されているが、無料で掲載していただける旅行雑誌については、情報を提供して積極的に掲載を働きかけていきたい。



## ケーブルテレビを活用した 安否確認システムとは



福島泰夫議員

**質問** ケーブルテレビの新しいサービスとして運用を開始した、インターネットを利用した独居老人等の安否確認システムについて次の点を伺う。

システムの内容と利用者の状況は。  
インターネット料金は、福祉の面から町が補助する考えとのことだったが、補助の方法は。  
このシステムに係る町の財政的な負担はどれくらいか。

**答弁**（健康福祉課長）従来のシステムでは、電話型の緊急通報装置本体とペンダント型送信機によりコールセンターに通報されたが、ケーブルテレビ通信網を活用した新システムでは、人

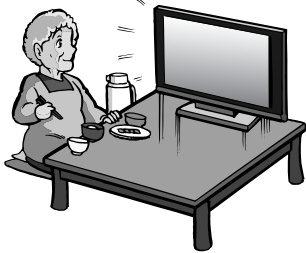
感センサーを各部屋に配置して生活リズムの異常を検知し、自動的に通報するシステムを加えた。更に火災報知器も併せて設置し、ペンダント型送信機も防水型として浴室でも使えるものとした。

設置台数は、11月で48台、2月1日現在で53台となっている。

当初、利用料を補助する方向で検討したが、今後の利用増を勘案し、利用料金がからないシステムに改修した。

システムの初期導入費用はなく、設置費、利用料込み一件、月額3,500円である。

### 一人暮らしでも安心 ケーブルテレビで見守り



## 生ごみの堆肥化試験 の状況は

**質問** 昨年3月に町環境基本計画が策定され、これに基づいて座談会を開催し、エコバックや水切りネット配布など、ごみ減量化に取り組んできたが、昨年12月からモデル地区を設けて実施している生ごみの堆肥化試験について次の点を伺う。  
生ごみの堆肥化試験の内容は。  
生ごみなど原料の割合と製品の量は。

県内で生ごみの堆肥化を行っている自治体は。

堆肥化試験の成果と今後の進め方は。

**答弁**（環境総合推進室長）生ごみの堆肥化試験は、環境基本計画の一環として取り組んだもので、生ごみの分別と堆肥化に分かれる。生ごみの分別については、昨年12月、ごみの収集日にあわせて7回、新町38戸、緑町33戸の皆さんの協力を得て、給食センターの生ごみと合わせて収集した。堆肥化については、芳井地区

の酪農家の協力を得て、まもなく完了する。

生ごみ1・9t、牛糞5tで約2tの堆肥となる。野木町、茂木町、高根沢町、芳賀町の4町で実施している。

当試験は、生ごみを身近なバイオマス資源と捉え、バイオマス利活用に関する基礎調査の一環で行ったものであり、試験の成果は今月中に取りまとめを行い、調査結果をもとに、あり方や方向性を「環境のまちづくり推進会議」で協議して

いく。

バイオマスについては堆肥だけでなく、ガス化、発電などの利活用もあるので、来年度の推進会議で協議していく。



分別収集された生ごみ

## 新庁舎建設の考えはあるか



川上要一議員

**質問** 行財政改革が各分野において順調に進められ、定員適正化計画も目標を上回る達成となっている。今

後、更に職員数が減少する中で行政サービスを堅持していかなければならないが、今後の庁舎等の配置をどう考えるのか次の点を伺う。  
現在は本庁舎、小川庁舎の2庁舎体制となっているが、少数の職員で効率的な事務事業を行うためには組織体制の見直しが必要と考える。今後について、どの

ような計画となつてい  
るのか。

費用対効果の観点から、現在の2庁舎体制を維持するのか、1か所に整備統合するのか。

整備統合する場合には、どちらかの庁舎を活用するのか、新庁舎を建設するのか。町長の考えは。

**答**（町長） 行財政改革及び定員適正化の目標として190人体制を考えている。人口規模や財政規模から見ても更に削減できないか思案するところでもある。

職員数を更に削減するには、学校、保育所、幼稚園など各施設の統廃合やケーブルテレビ放送センター、図書館、美術館などの指定

管理者制度導入、更には1庁舎体制への移行など、あらゆる手段を講じていかなければならないと考えるが、行財政改革と住民サービスは相反する面もあり、いかに町民の理解を得ながらバランス良く実行していくかが重要な課題と考える。また、権限委譲等により町が扱う事務事業の増加も見込まれることから、効率的な

行政サービスを展開するため、行財政改革推進計画に基づき、中長期的な視野に立つて検討していきたい。

費用対効果の具体的な

数値は算出していないが、1庁舎体制の方が維持管理面や事務事業の執行面で効率的と考える。

しかし、現在の両庁舎の規模や老朽化の面、町民感情の観点からも一方の庁舎に集中することは難しいと考える。

現在のところ新庁舎建設の考えはないが、議会や町民の意見を伺いながら、庁舎建設の構想や資金計画を検討していきたい。

### 小川ゆうゆう農産物直売所の出入り口改善を

**質問** 小川総合福祉センター

内「小川ゆうゆう農産物直売所」は開設以来、町内農業者の農産物販売や地産地消の推進に大きく寄与しているが、直売所の出入り口が1か所であるため、生産者や消費者から利用しづら



小川ゆうゆう農産物直売所

いと苦情がある。より利用しやすいように出入り口を改善する考えはないか伺う。

**答**（農林振興課長）現在の直売所は町道清浄場線に背を向けて設置されているが、道路側からも農産物を展示し、出入りできるようにすれば、利用者や売り上げの増加が見込めると考える。出入り口については、組合員や消費者の意向を聞きながら、交通安全に十分配慮し、建物や駐車場と併せて改善していきたい。

## 経済状況に即した町奨学生制度の拡充を



益子明美議員

うか。

現在の募集時期と募集方法は妥当であるか。

**答**（教育長） 厳しい経済状況下にあつて、子供たちの進学にも影響が出ているのではないかと危惧している。

町奨学金制度は進学に対するセーフティネットであり、運用に関しては一層努力していきたい。

提案のあつた自宅通学と自宅外通学の差額、入学一時金の貸付、あるいは貸与額の見直しなど、より利用しやすいものにするため調査研究をしていく考えである。

（学校教育課長） 募集時期は例年、中学校で進路相談をする時期の11月に合わせて、11月から12月にかけて行っている。

募集方法は、町内の中学校と近隣の高等学校に募集要項を配布したり、広報紙や町ホームページ、ケーブルテレビに募集案内を掲載

しており、概ね適当な方法であると思う。



奨学金制度を充実し就学しやすい環境整備を

### 職員の懲戒処分の内容は妥当だったのか

**質問** 再び町職員の会計不適正処理が明らかになり、その処分に関して町民からは厳しい批判があった。

町長はこの件に関して、二度と同じようなことが起きないよう厳罰をもって対処すると述べられたことから次の点を伺う。

町民からの批判の声を町長は、どう受け止めたのか。那珂川町職員の分限及び

懲戒等の取り扱いに関する訓令及び審査基準は妥当と判断しているか。

厳罰をもって処するとして町長の考えは今後、具体的なものとしてどう示されるのか。

**回答**（町長） 職員の不祥事に関して、議員をはじめ町民の皆様に変な迷惑をおかけしたこと、心からお詫び申し上げたい。

今後、再発防止の徹底と職員モラルの向上に努め、一日も早く信頼を回復させたい。

今回の件に関して多くの町民から厳しい意見を頂いており、厳粛に受け止めている。

町職員の分限及び懲戒等の取り扱いに関する訓令及び審査基準は県に準じて作成しており、訓令そのものは妥当な基準と認識している。

今後、公平・公正を基本に基準運用を厳しい視点で捉えることとし、より厳しい審査基準に見直すことを検討していく。また、審査委員会には、民間からの登用も検討していく。

### 不祥事再発防止にどんな対策をとったか



桑原勇一議員

**質問** 職員の不祥事が2年続けて発生したことから、指導体制と対応について次の点を伺う。

今回の不祥事は、団体会計事務を1人で担当していたためであり、なぜ複数の職員で管理できなかったのか。

再発防止のため、どのような対策を行ったのか。町民からは処分が甘いとの声を聞く。処分を検討する委員会の見解は。

**回答**（副町長） 当該職員は事業内容や専門情報に精通しており、団体等の信頼も厚かったことから1人で事務を担当していた。また、町補助金交付団体ではなかったため、指導が徹底されなかった。

町補助金交付団体以外も含めて職員が扱っている各種団体の会計事務について再調査を行い、通帳と印鑑を別々の職員が管理するよう指導を徹底した。また、定期的な内部検査を行う等、更にチェック体制を強化する。

訓令に示されている処分基準に基づき量定の検討を行い、町長に報告したが、処分が軽いとの声があることも事実であり、今後、審査委員会に職員以外の委員を加えた在り方を検討したい。

### 魅力あるケーブルテレビに

**質問** 魅力あるケーブルテレビとするために次の点を伺う。

自主制作・企画番組をもつと充実できないか。グループ単位での音声告知放送はできないか。

次年度以降の計画や新サービスについて検討をしているのか。



ケーブルテレビ放送センター内

るのか。

**回答**（ケーブルテレビ放送センター室長） ニュース番組収録を週2回から3回にできるよう検討したい。また、運用開始後1年を経過することから視聴者アンケートを実施し、自主放送の充実に努めていきたい。

音声告知放送にはグループ単位の放送ができる機能があるが、事前にグループの登録や更新手続きが必要となる。次年度からの利用開始を目指して利用基準や利用マニュアルの作成を進めている。

更に加入促進に努め、効率的な管理運営に向けて調査検討を行い、業務委託等の



方向性を定めていきたい。また、独り暮らしお年寄りの見守りシステム、図書館情報サービス、CS放送システム対応のほか、地域情報化計画や町民要望に対応しながら進めていきたい。

### 町民の健康づくりにご当地体操を

**質問** 祭り、文化、特産物等を取り入れた誰でもできる「ご当地体操」を作り、生活習慣病予防や町民の健康づくりを行い、町の活性化を図れないか伺う。

**答弁**（町長）生活習慣病予防・介護予防教室、フィットネスクラブ、お達者会等の各種教室を通じて運動を推進してきた。また、ケーブルテレビで企画番組も放送している。平成23年度開催の全国レクリエーションスポーツ大会で、当町が「3B体操」の会場地となることから、講習会等を実施し、この体操を推進していくこととしている。ご当地体操も地域福祉計画や健康増進計画を策定する中で今後、検討していく。

### 長期間放置された不法投棄物の問題を一日も早く解決し、住民の安全・安心な暮らしを回復すべき



杉本益三議員

**質問** 小口北沢地区に大量の産業廃棄物が不法投棄されてから約20年もの歳月が経過した。

旧馬頭町では最重要課題と位置付け、北沢地区不法投棄物適正処理検討委員会を設置するなど解決に向けて様々な努力を重ねてきた。旧町では最終的な判断として、不法投棄物撤去のために県営管理型最終処分場の設置を県知事に要請し、解決を図ることに決定した。また、議会においても処分場建設反対の請願を不採択とした経緯もある。

前町長も県との基本協定を結び、早期解決に向けて取り組んできた。

地域住民は長い間、危険と不安を感じてきたところ

であり、一日も早く安全で安心な生活を取り戻せるよう、町は積極的に対策を講じるべきと考える。今後、町はこの問題に対してどのような取り組みでいくのか。また、地域住民を含めた推進組織等を設置する考えはあるのか伺う。

**答弁**（町長）最終処分場の設置に当たっては様々な考え方や意見があるが、これ以上問題を先送りすれば、次の世代にまで不安や心配を残すことになることから、小口、小砂、和見地区の行政区を中心とした皆さんと将来を見据えてどのように振興を図るべきか意見をいただき、信頼関係の構築を図りながら解決に努めていきたい。

また、1日でも早く地域の皆さんの不安や心配が解消されるよう、行政区を中心とした推進組織を設置し、振興策や恒久的な解決手段である最終処分場の早期設置に向けて協議をしていき

たい。県に対して積極的に支援をお願いしたいと考えている。

那珂川町の振興とこの問題を早期解決に導くことが使命であり、最終課題と考えている。

### 協働のまちづくりの具体的計画は

**質問** 町長の選挙公約に掲げられた「町民参加の笑顔あふれる協働のまちづくり」について、12月定例議会の答弁では、策定中の「地域住民との協働のまちづくり推進計画」にまとめるとのことであったが、計画の具体的内容について伺う。

**答弁**（町長）協働のまちづくり推進は、今後の町政運営に必要な不可欠な課題と考えている。協働のまちづくり推進計画の策定は、公募委員を含めた計画策定委員会を組織して進めてきたが、現在、計画案の最終段階に入っている。計画の具体的内容では、

協働の環境整備と地域コミュニケーション活動支援を掲げ、地域住民が主役となる基本的ルールを定め、まちづくり協議会設置、ボランティア保険制度拡充、積極的な情報公開、職員の意識改革、提案型補助金の活用、リーダー講習会、公共施設等活動場所の提供、ケーブルテレビを活用した情報発信支援などを計画している。

このような協働のまちづくり環境を整備することにより、地域住民が主役となって協働のまちづくりが推進されることを期待している。



（一般質問は、紙面の都合により、一部掲載を省略しております。）